



# REINANZAKA SCOUT CLUB



2016年  
10月29日号

発行：霊南坂スカウトクラブ／日本基督教団霊南坂教会内  
〒107-0052 東京都港区赤坂 1-14-3 電話：03-3583-0403  
ホームページ <http://reinzaka-sc.o.oo7.jp/>

No.50

## あの日、あの時、そして70年

荒垣 恒英



「嗚々、良かった！」と母が心底から口走った時、未だ14才であった私を驚かせた事を今でもは

っきりと憶えて居ります。昭和20年、天皇陛下が「耐えがたきを耐え、忍びがたきを忍び、もって万世のために太平を開かんと欲す。(艱難辛苦を乗り越えて、国の再建の為に努力をして欲しい)」とラジオで日本国民に訴えた、あの無条件降伏を呑んだ歴史的なラジオ放送を聞き終えた時のことであります。私の母は、戦前から、白山教会で米国宣教師から音楽を学び、オルガニストを勤めて居た関係で戦時中も常に戦争反対を叫び、神棚も造らず、防空壕を掘れという町会の命令にも従わず、その結果、我が家は戦時中、常時憲兵隊に監視されて居たことを幼くして感じていました。私自身、小学校の帰途など、度々乱暴な同級生達のいじめの犠牲に為っていた事を覚えております。

一方、若くして長崎で医者になった父は戦前、外務省より香港在住日本人の健康調査の目的で彼の地に二年間派遣されましたが、その折、英国で始まったスカウト運動に触れ、彼の地で日系スカウト隊発足に関与していたようです。彼のスカウトユ

ニフォーム姿の写真をよく見ていた子供の頃の事を思い出します。そんな関係で、或る日曜、霊南坂教会礼拝のあと小崎道雄牧師より当教会をベースとしたボーイスカウト隊を創めたい、と云う二人の「外人さん」を紹介された時、私は即座に参加の意を表したことは蓋し当然だったでしょう。

このお二人こそ、アラバマ出身のウィリアムス氏とハワイ生まれの日系二世今井譲二氏だったのです。こうして始まった、現代の霊南坂チャーチスカウト第四団こそ、日本唯一、霊南坂教会を中心に発展したボーイ、ガール、カブ隊を含むチャーチスカウト運動の始まりだったのです。初めは約20人以下のメンバーだったと覚えておりますが二つの班に分けてスタート致しました。その一つ、イーグル班の班長は小崎牧師の次男、忠雄君。もうひとつのライオン班の班長には、何故か私が選ばれました。当時は未だユニフォームすら無い厳しい時勢。青と黄色のネッカチーフと三指のスカウトサインのみがスカウトの象徴でした。最初に教わったことが「一日一善」。続いてマッチ無しで火をスタートするコツ、縄結び、救急法、キャンプ生活、その他、戦時中は、メンコとベーゴマと縄跳び位しか遊ぶものが無かった僕等は、土曜日の毎週会が楽しくて楽

*Two steps to Happiness  
are ; Taking life as a game  
and giving out Love.*

*---Rovering to Success---*



ベーデン・パウエル卿の言葉

**幸せへの二つの道は、人生をゲームとし、惜しみなく愛することである。**

しくて仕方が有りませんでした。私はこの霊南坂スカウトグループの中でも、ただ一人の例外で毎土曜日、当時は片道約一時間半以上を掛けて、遠路世田谷区の外れより通って居りましたが、全く苦に思ったことが有りませんでした。

夏のキャンプでは、テントの張り方、飯盒で炊く御飯、その他、各人手分けして、持ち場持ち場で新しいことを学び、経験し、そして必ずキャンプ場を引き揚げる際は来た時と同じよう、いや、それ以上に綺麗にして自然にお戻しすると云う気持ちでいつも自然に身に染みて学ぶことが出来ました。

そうこうするうちにアッと云う間に数年以上の年月が経ち、あれ  
——次ページに続く

よあれよという間に、入試地獄、予備校、就職、また私の場合は学卒後半年で渡米し大学院へ3年、帰国後一年の後には、仕事でアメリカへ再度飛ばされ、それ以来、多々の喜怒哀楽を通過し、今、あれから70年と云う過去を振り返って見る時、私が過ごした霊南坂での数年のスカウト生活が如何に私の85年になろうとしている人生の中で重要、且つ有意義至極なものであったかを想うとき、私の感謝の気持ちを、当然ながらウイリアムス氏、今井先生、それから一緒にスカウト生活を有意義なものにしてくれたボーイ、ガール、

そしてカブ隊夫々のスカウト仲間達、そのリーダーさん達、それを温かく育て下さって来た霊南坂教会、それらに何らかの形で連なる皆々様方総てに抱かざるを得ません。

私の同期の上述、忠雄君のほかには、何時もジョークで人を笑わせたイダゴこと飯田君、嫌な事でも率先してやった今田のフーちゃんこと今田富士雄君、何れも既に他界された由、では！神のもとでの再会を楽しみに致しております。そして、志水の功ちゃん、貴君のお陰で音楽というものに親しみを学びました。いつも我々合唱のまえ貴君はポケット

から、音叉(?)を出しては、ご自分の頭をそれで叩いて音を選んだ御動作が今でも走馬燈の様に目に浮かびます。来春の再会をば心より楽しみに致しております。

以上、何らかの形で、この霊南坂スカウトクラブに連なる皆々様、70周年行事、来春の再会をば心より楽しみに致しております。皆々様、お元気で毎日を一杯お過ごしくださいませ。

編集係より。荒垣さんの現況を知るために、ご本人から頂いた旧漢字の原稿をそのまま掲載いたしました。約60年の米国在住で漢字の時間は停止しているようです。

## 「霊南坂スカウトクラブ」の会長を拝命して

西郷崇子



それは突然のことでした。昨年の春、お元気でいつもニコニコ日曜日の礼拝前教会の玄関ホールに立たれ握手で迎えてくださる小崎忠雄兄が神さまの御許に旅立たれました。「霊南坂スカウトクラブ」発足時から

会長として大きな心でその活動を見守り応援して下さっていました。“Once a Scout Always a Scout” 「ひとたびスカウトであつたら、生涯スカウトだ」をモットーに実践されて来られました。その突然の訃報の最中、もっとも適任の諸氏が居られますのに、丁度私事ながらお粗末にも怪我をして入院中のことでご辞退させていただく間もないまま不適任ながら後任会長のお役を拝命することになりました。

来年は「霊南坂スカウト」は70周年を迎えます。50周年を迎えることになる3年前その準備のために、私たちの「霊南坂スカウト」は発団当時から折につけボーイスカウトとガールスカウトはいつも力を合わせ協力し合い、楽しく共に歩んで来ましたので、現団を支援し、また共に「霊南坂スカウト」としてOB・OGのそして「霊南坂スカウト」に関わりのあった教会員・団委員等の輪を広げ親睦のもと「霊南坂スカウトクラブ」を発足させました。他団と違い、ボーイスカウトだけでもガールスカウトだけのものでもなく、「霊南坂スカウト」はボーイスカウト・ガールスカウト・スカウトクラブが三位一体となって、霊南坂教

会との縁(えにし)のもと初めて「霊南坂スカウト」なのです。スカウトクラブを発足させる時のこの思いを、20余年たった今もまだ十分発揮浸透させられていない面がありますので、ぜひ微力ながら伝えてゆくお手伝いをさせていただければと願い、初代会長のお後をしばしの間お引き受けすることになりました。“Once a Scout Always a Scout” 次なる担い手にバトンを渡すことが早くできますように願って止みません。

ボーイスカウトとガールスカウトがこの運動を次世代へと大切に伝え繋げて行くためには、ボーイは！ガールは！ではなく、一つになっていつも手を取り合って助け合い補い合って共に活動してゆくことがこれからの時代は正に大事で必要となってくるものと信じています。このことは「霊南坂スカウト」だけのことではなく、日本の、世界の連盟においても検討されていく必要があると願っています。



朝子先生ありがとうございました  
西郷崇子

去る3月21日一生懸命早起きして日帰りで西宮の甲東園まで大切な方のご葬儀に行ってきた。来年70周年を迎える霊南坂スカウトのガールスカウトを始められた初代リーダー芹野朝子先生とのお別れに、連休最終日行きも帰りも新幹線は満席でしたが飛び乗りでも無事行くことが出来ました。

霊南坂スカウトのみならず、日本の戦後のガールスカウト復興にも関わられました。お父上の小崎道雄牧師のご英断で霊南坂教会に先ずボーイスカウトが生まれ、続いてガールスカウトが朝子先生を初代リーダーとして生まれました。戦後GHQの指導も加わりガールスカウト日本連盟が再興された折、現在の発展へのちからとなるプログラム委員長としてもトレーナーとしてものお働きをなさいました。

昨年ご夫君芹野俊郎牧師と揃ってお元気で卒寿のお祝いをなさいました。霊南坂スカウトの70周年も一緒に祝っていただきたかったです。

昨秋頃から体調を崩され年末に病の床につかれました。お手厚いご看護のなか3月17日午後9:25静かに神様の御許に旅立たれました。

思えばまだ小学生だった頃から70年余りの時を経て白髪のバアバになっても「たあこちゃん」と可愛がっていただけたことを心から感謝しています。もう一度お会いしたかった想いでいっぱいです。温かく優しく美しい特徴あるお声と、えくぼがチャーミングな笑顔が今もハッキリ聴こえ笑いかけてくださっています。まだまだ教えていただきたいこと山々で、悲しみと寂しさと残念でなりません。

御国で安らかなることとまたいつ



の日か再開が叶うことと信じて、朝子先生の伝えてくださったスカウトの道を歩み続けたいと願います。



朝子先生の笑顔 河合潤子

もう随分以前のことで、私は、ガールスカウトに入団させていただくため、母に連れられて霊南坂教会を訪れました。都電の笹竹町の停留所から急な坂を上り、教会の礼拝堂の階下にある幼稚園の大きな扉の前に立った時、急に中から扉が開いて、「あら、いらっしやい！」と明るい大きなお声が響き、笑顔の朝子先生が、私たちを迎えてくださいました。母と私の訪問を心から喜んでくださる先生の笑顔に出会った途端、新しい場所を訪れる私の不安は消え去りました。

朝子先生の明るい笑顔と張りのあるお声で回りの人たちを暖かく包みこんでくださるお姿は、いつまでも色褪せることなく私の記憶の中にあります。

先生は、きっと今でも、あの笑顔をたたえたお姿で天国から私たちを暖かく見守っていてくださっていることでしょう。

先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

朝子先生のこと 大岩 久

何よりもその美しい歌声が魅力的でした。

「やくそくの歌」をうたう時、新しい歌を教えていただく時、その声は心地良く、私たちの胸にひびきました。

日本連盟が出来る前で、何もかもが「はじめて」のことばかり。リーダーたちは大変だったと思いますが、私たちは毎週の集会が楽しみで、この次はどんな歌をうたうのだろう、どんなことをするのだろうと、ワクワクしていました。

私の入団は発団の年の12月、後に四代目リーダーとなる根本(臼井)喜久子さんと一緒でした。

キャンプというのも初めての経験で、茅ヶ崎の小崎家別荘(当時)で、2泊3日。海岸に行ったことはおぼえていますが、泳いだかどうかはおぼえていません。

ご結婚が決まって、礼拝堂階下の講堂で、祝会が開かれている時、丁度通りかかると会場から、出席されている教会員の方々の歌声が聞こえてきました。

「アーちゃん、としろうくん、おめでとう！おめでとう！」皆さんの、心からの祝福のうた声でした。



**GSジュニアのキャンプ**

今年の夏キャンプは、テーマを「さすが！スカウト」として「ほほえみの会」主催の8月19日～22日の3泊4日、山中湖村営キャンプ場での「湖と森に親しむキャンプ2016」に参加しました。

自団だけでのキャンプと違い、参加団7団の友好団とのキャンプは新しい発見と貴重な体験を積むことができた有意義なキャンプとなりました。

**夏キャンプを終えて 目黒由奈**

楽しみにしていた夏キャンプは台風にあってしまいました。キャンプ場に行った日は雨がふってなかったので、グループでテントをはりました。これまで練習をしていたのでみんなといっしょに上手にテントをはることができました。練習の成果を出すことができてうれしかったです。

その日の夜はテントでねましたがめがさめると雨がふっていて、どんどんひどくなってきました。次の日からは体育館ですごすことになりました。

体育館で楽しかったのはパーティーです。みんなおしゃれをしてテーブルの間を歩きました。私ははずかしかったのでリボンをつけただけでしたが、布をドレスのように着かざっている人もいて、とてももり上がりました。

台風は残念でしたがみんなで過ごした時間はとても楽しくて、忘れられない思い出となりました。

雨の中テントをたたんで下さったり、準備をして下さったリーダーの方々、本当にありがとうございました。



**一番の思い出 伊藤三輪子**

わたしが夏キャンプで一番思い出に残っているのは、まきで火をおこしたことです。

1日目、前のキャンプで火をおこすのはやったことがあるし、楽しかったからまたやろうと思って火おこしをはじめましたが、何度やってもできなかったの、ほかの人に手伝ってもらいやっとできました。でも、できるようになって、みんなにすごいといわれたかったの、二日目もちょうせんしました。

二日目はほかの団のリーダーに、新聞紙を空気が入るようにねじってたてにおくと、すぐつくよと教えてもらったのでそのヒントをいかして火がつかしました。

もっとうまくなりたかったけれど、台風のえいきょうで、三日目四日目はできなかったの、うまくてきた日のことをわすれないようにして、こんどはつぎのキャンプでいかせるようにしたいです。

**夏キャンプで楽しかったこと 織内沙那**

私が夏キャンプで楽しかったことは、2つあります。1つ目は自分たちでテントをはってねたこと、2つ目はポイントラリーです。

テントを外ではるのは初めてだったのでちょっとむずかしい所もあったけれどうまくはれることができてうれしかったです、テントでねるのも初めてで、しばらくだけだったけれど、いい経験になったと思

います。

ポイントラリーは、団ごとにリーダーが立っていて、そこでリーダーからポイントをもらいます。リーダーから教えてもらって、チーフリングやランタンなどをつくったことが楽しかったです。この夏キャンプで色々なことを経験して、みんなと協力することや、色々なぎじゅつなど、多くのことを学びました。この夏キャンプで学んだことを、これから色々なことに生かしていきたいです。

**夏キャンプ感想 黒川詩織**

今年の夏キャンプはとても楽しかったです。中でも一番楽しかったのは、最後のパーティーです。なぜなら、衣装作りがとても面白かったからです。その衣装を着てファッションショーをしたり踊ったりできたことも楽しかったです。

大変だったことは台風で雨が降って、テントから体育館に移動したことです。避難生活みたいで、とても大変でした。避難生活はとても大変なんだということがわかりました。

3泊4日のキャンプを通して、友達がたくさん作れました。合計8人もの友達ができました。「また会えるといいな」と思います。

この大変で楽しいキャンプに行った後「友達作るって楽しいな」と思い、もっと友達をたくさん作りたかったです。





目的は第12回アジア太平洋地域会議に参加すること、ガールスカウト東京都第43団が支援しているサンクー小学校を見学することです。

まず、8月31日～9月2日は第12回アジア太平洋地域会議にガールスカウト日本連盟のオブザーバー/青年代表として参加しました。アジア太平洋地域会議は3年に1度、WAGGGSのアジア太平洋地域に加盟する連盟23カ国が参加する会議です。3年間の活動報告と今後の方針計画と、ガールスカウト世界連盟の方針と、アジア太平洋地域委員の選出、次回会議開催地の決定などたくさんのことを行いました。他国の青年代表の友達もたくさんできました。参加連盟に、母国語を英語とする国がほとんどなかったので、私も積極的に話しかけることができました。



他国のスカウトとのコミュニケーションに於いて感じたことは、たとえ英語を使うことができても、自分の意見を持っていないければ会議に参加する意味がないということです。そういう意味で、今回の会議は自国のことをよく知っていて、それに基づいた意見をしっかり持っているスカウトばかりでした。

9月3日～6日は、首都カトマンズ在住の東京都第43団 SCAPP の伊勢香様のお宅にホームステイをさ

せていただきました。東京都第43団は約15年前にサンクー村の小学校の校舎を作る支援をし、今でもノートや鉛筆、ユニフォームを配ったり、通っている児童の家庭の状況を把握し支援したりといったことを続けています。そのサンクー小学校を訪問してきました。通っている児童の姿や町の様子を見て、自分にできることはどんなことなのか、何をすべきなのか、などたくさん考えることができました。

ガールスカウトは、世界中に連盟があり、100年もの長い歴史のある、女子のための唯一の団体です。世界中に姉妹がいるということは、それだけ世界を変える力を持っているということです。アジア太平洋地域会議に参加して、そのことを強く感じることができました。

送り出してくださった4団のみなさま、日本派遣団のみなさま、伊勢様ご家族に感謝いたします。



## ボーイスカウト東京港第1団

今年はビーバースカウト隊とカブスカウト隊は団合同キャンプとして  
神奈川県藤野市 「桐花園」(陣馬山のふもと)で7月後半に実施しました。



### ビーバースカウト隊 田邊秀平

なつやすみに入ってすぐに、ボーイスカウトのキャンプにさんかしました。

キャンプ中、一番うれしかったことは、ぼくは、こんちゅうがだいすきなので、どんなこんちゅうに会えるかとてもたのしみにしていたら、朝も夜も、はみがきの時間にミヤマクワガタがぼくのところにきてくれたことです。もっとこんちゅうをさがしたかったです。

二番目は、山のぼりのとき、だいちくんとたかあきくんとぼくで、うたをつくって三人でうたいながら歩いたことです。

三番目にたのしかったことは、川であそんだことです。おたまじゃくしを手ですくったこと。それと、メダカをみつけたことです。

じぶんたちでつくったゼリーがとてもおいしかったです。

### カブスカウト隊 ヘイデン・グレッグ

7月23日から26日まで初めてのカブ隊のキャンプに参加しました。一泊以上のお泊りは初めてだったので自分で身の回りの事がきちんと出来るかどうか不安でしたが隊長や副長のおかげで楽しく出来ました。

キャンプで楽しかったことはハイキングやデン作り、カレー作り、そしてバッグ作りです。ハイキングではみんなが頑張って助け合いながら頂上まで登りました。とても暑くて疲れたけれども、またチャレンジしたいと思いました。デン作りでは一組の仲間たちと協力して初めての小屋作りができてうれしかったです。一時間以内に太い木の枝を結ぶのがとても難しく諦めたくなかったけれども頑張ってやり続けたらやるとむすべたので良かったです。

カレー作りも最初から最後までお手伝いして作った

り、お米をといたのは初めてで、切り方のコツや安全に野外で調理する方法を隊長たちに教えていただきました。カレーをこぼさないように力を加減しながら混ぜるのが少し大変でした。今度は家族にカレーを作って食べてもらいたいです。バッグを作る時には葉っぱを使って自然の色で模様を作ったりすることが出来ることを学べて楽しかったです。

ボーイスカウト隊は東京連盟「サマーキャンプ2016」に参加し、他団のスカウトと合同で隊編成し、初めて会うスカウトと各団で異なる日頃の訓練をベースと一緒にキャンプするのでスカウトは緊張する場面も多く、送り出したリーダーも緊張するキャンプです。



### ボーイスカウト隊 濱田千太郎

サマーキャンプ2016の思い出

中学生になって、学業と部活にボーイスカウト活動が、調整が難しくなった。でも、その反面、ボーイスカウト活動の仲間とその場があることが僕の気持ちを切り替えるところになっていて、良い感じだ。学校の移動教室と呼ばれる宿泊をともなう活動があるが、だんだん自主性が要求され、野外活動もあるため、ボーイ隊での技術がそのまま役立つ。ちょっ

と自慢できるところだ。

今年は、東京連盟主催のサマーキャンプで、僕は、緊張していた。大勢のひとと会うこと、初めてのことに取り組むのが少し苦手だからだ。先輩や仲間は、昨年の反省から事前準備に忙しい。小崎隊長や池田副長から色々指導してもらって、サマーキャンプで困らないようにしている。僕は、部活があって、思うほど事前準備活動に参加できなかった。それから、家の手伝いもしていなかったから、サマーキャンプで失敗した。それも大事な食事だ〜。米をとぐときに米が、こぼれてしまったんだ。予想通り、叱られた。怒鳴られた。やっちゃったなあ。落ち込んだ。日頃のそなえが、表れただけだ。苦い思い出になった。



### 富士章を受章するまで

#### ボーイスカウト港1団 ベンチャースカウト隊

#### 矢野智大

これまで12年間の集大成である富士章を胸につけることができ嬉しい反面、身が引き締まる思いです。

富士章を受章するまでの思い出を少し振り返ってみます。霊南坂幼稚園に入園したことがきっかけで、港1団に入団しました。その後、父の仕事の都合で福岡に引っ越しましたが、福岡でもボーイスカウト活動を続けました。再び東京に戻ってきた時にまた港1団のボーイスカウトとして昔の仲間や先輩方と活動できたことは大変嬉しかったです。



矢野智大

第15回日本ジャンボリー、第16回日本ジャンボリー、第23回世界ジャンボリー、富士特別野営2016など色々な大会に参加し、得た経験や、出会った仲間たちは掛けがえのないものです。これまでお世話になった、指導者の方々、霊南坂教会の皆様。本当にありがとうございました。

私は富士章はゴールではなくスタート地点だと考えます。今後はこれまでの経験を糧に日々精進してまいります。

### 港まつり

毎年10月初旬の土曜・日曜日に芝公園で港区の「港まつり」が開催されています。

今年の8日・9日は両日共に午前中は生憎の雨、それも土砂降りとなりました。そのような中でも午後には雨も上がり、例年のボーイスカウトは焼きそばやさん、ガールスカウトはフリーマーケットを開きました。今年はパレードも無事行うことが出来ました。





**奥島孝康**

ボーイスカウト日本連盟  
理事長  
日本高校野球連盟会長  
早稲田大学元総長

人間というものは、生きるうえで、さまざまな「ムダ」をする。否、むしろ「ムダ」ばかりしていると言ってもいいくらいだ。例えば、コンパ、飲み会、カラオケなどのいわゆる楽しい「遊び」。しかし、それは本当に「ムダ」なのか。

詩人の佐藤春夫に至っては、「若き二十のころなれや／六年がほどはかよひしも／酒、歌、煙草、また女／

外に学びしこともなし」と学生時代を懐かしんでいるくらいである。

しかし、佐藤春夫でなければ、こうした「ムダ」が人生にとってまったく必要がないかどうかは大いに疑問であろう。周知のように、ひところ資本主義社会の弊害は「ムダの制度化」であるとさえ言われたが、社会主義諸国におけるムダを排除するはずの計画経済の驚くほど貧しい実態が明らかになるにつれて、その声は聞かれなくなってきた。それどころか、使われる局面はまるで異なるものの、一般にはむしろ「ムダの効用」という言葉さえもよく耳にする。

もっとも、「ムダの効用」という語感には誤解を招きやすいので、ここでは、荘子の言葉である「無用の用」を借りて話を進めることにしたい。世の中には、一見「無用」のように見えながら、それが重要な役割を果たすことが決して少なくないのである。

昭和天皇がお亡くなりになったとき、高坂正堯京都大学教授は、新聞紙上のコメントで、昭和天皇の存在を「無用の大用」と讃えられたことは忘れられない記憶としてぼくの脳裏に残っている。いうまでもなく、当時も今も、ぼくはまったく同感である。それくらい

わが国の現代史に占める昭和天皇の存在は大きかったと思う。

ところで、学生時代のコンパの席上で、ぼくらはいつもやけくそのように「デカンショ節」をがなっていた。「デカンショ」とは、「デカルト、カント、ショウペンハウエル」を短縮した言葉だといわれ、学生の愛唱歌の一つだった。これら3人の哲学者の書物を読んで「半年や暮らす、ヨイヨイ。あとの半年や寝て暮らす、ヨーイ、ヨーイ、デッカンショ」というわけである。とはいえ、いくら読んでも理解できないとすれば、まさしく「ムダ」な努力にすぎない。

おまけに、ショウペンハウエルの『読書について』(岩波文庫)によれば、いきなり「読書は、他人にももの考えてもらうことである。・：ほとんどまる1日を多読に費やす勤勉な人間は、しだいに自分でものをかんがえる力を失って行く」とさえ書いてあるではないか。まるでたくさん読んではいけない、思索をするためには読書は「無用」と言わんばかりだ。

もとより、ショウペンハウエルの言葉は、彼一流のアフォリズム(警句)にすぎず、そうならないための読書のあり方を説いているのだ。しかし、われわれ凡人にとっては、読書が「無用」であるとしても、なおそれは「無用の用」というべきである。学校で学んだことの多くが結果的に「ムダ」になったとしても、だから「無用」ということになるであろうか。生きるうえで必要(有用)な知恵はどういうものか予測はつかない。だからこそ、「備えよ常に」とは、まさに「無用の用」の効用を説くものでもあるのである。



雑誌「財界」に連載されている奥島理事長のコラムが単行本として発売されました。今回はその166頁から転載しました。

**夏休み恒例 バザーのためのジャム工場操業**

バザーのためのジャム工場の操業が、今年も軽井沢の RSC Taako's Kitchen で開催されました。

急遽参加出来なくなった人がでましたが新しい強力男性も加わり、いとも見事に手際よく進めることが出来ました。産地取り立て直送の美味しい、美容と健康にもバッチリのルバーブジャムを教会バザーで販売いたしました。



## 訃報 石川正巳さんは8月3日天に召されました



1955年日本で最初の正式な、唯一の隊として、シーズカウト隊を石川正巳氏が初代隊長となって結成されました。その後カルフォルニアの Saratoga に移住され、海外在住の霊南坂スカウトクラブのメンバーとして応援してくださいました。

12年間の厳しい闘病生活とリハビリを頑張っていたのですが、去る8月3日天に召されました。最後まで霊南坂でのスカウティングの思い出話を奥様によく懐かしんで話され、会報をじっと長い間見詰めては楽しんでくださったそうです。

奥様からスカウトクラブにご厚志をいただきました。ご冥福をお祈りいたします。

### 石川正巳氏を偲んで 渡邊 澄

石川正巳氏に出会ったのは麻布高校に通っていたころだった。当時溜池の近くにあった、日本ナショナル金銭登録機に勤め、同社のヨット部に係っていた石川氏から提案があり、アメリカにはあったが日本には無かったシーズカウトをやろうということになり、私の他に川崎 豊、道下、黒川、下河辺君などが手をあげ、外部からは高橋純一君や高校の同級生の河合君、富山の商船学校に行っていた阿部さんなどがメンバーで始まったと記憶している。

米海軍の水兵と同じ格好のユニフォームはすべて自前で調達したものだ。大磯にあったナショナル金銭登録機の工場にヨットがあり、これを借用して大磯沖で訓練をしたり、隅田川の支流に沈没していたカッターを引き上げようとしたり、かなり夢中になったものだ。

社会人になって17～8年経ったころ、アメリカへの出張で当時サンノゼにあった石川家に泊めて頂いたこともあった。その後時々手紙をいただいたりしていたのだが、まさか亡くなられたとは残念なことだ。ご家族にお悔やみを申し上げるとともに心からご冥福を祈る。

## 教会バザーに出店

霊南坂教会バザーは10月22日(土)開催されました。

スカウトクラブからは軽井沢 RSC Taako's Kitchen で製造したルバーブジャムほかアイデア商品を出品しました。



### お品書き

チュロス	¥100 (完売)
モカムース	¥150 (完売)
ジュース	
カルピス	¥50
アイスコーヒー	¥50
ルバーブジャム	¥500 (完売)
巾着	¥1000

## 霊南坂スカウトは誕生70年を迎えます

2017年4月29日(土)、霊南坂スカウト70周年記念行事を開催いたします。  
ボーイスカウト港第1団、ガールスカウト東京都第4団、霊南坂スカウトクラブの三者で、この記念すべき日を共に祝うために、企画委員会を中心に準備を進めております。

”Once a Scout, always a Scout”はスカウトクラブの大きな指針です。社会人となり、長い年月とともにスカウトのことを忘れていた方もこの機会に懐かしい「霊南坂スカウト」を思い起こしていただけることを願っております。

OB,OGの年齢を考慮すると皆様が集える貴重な機会と思われまます。

### 霊南坂スカウト70周年記念の主な行事は次の通りです

日時：2017年4月29日(土)

① 礼拝：後宮敬爾(うしろくよしや) 牧師 オルガン：今井奈緒子

② 式典：テーマ「信じる心」

ディレクター：GS：鈴木充代

BS：小崎 信

③ 祝会

④ 70周年記念パーティー：スカウトクラブ主催

スカウトクラブでは上記に関連して、次の3項目について準備を進めております。

#### 1・スカウトクラブ主催「70周年記念パーティーの開催」

日時 2017年4月29日(土) 教会での祝会終了後

会場「ARK HILLS CAFE」アークヒルズカフェ(カラヤン広場内)

会費 7000円

#### 2・70周年史年表発行「霊南坂スカウト70年の歩み」

OB,OGの年齢を考慮すると歴史を記録できる最後の機会と思われまます。

資料、情報提供のご協力をお願いいたします。

#### 3・70周年記念賛助金募集(スカウトクラブの財政運営は厳しい状況にあります。)

記念事業を成功するための記念賛助金にご協力ください。

記念賛助金 一口1,000円として2口以上お願いいたします。

(振り込み用紙にて年会費と共に「70周年記念賛助金」に○印をしてご協力をお願いいたします。)

10月30日現在 下記の方々(敬称略)から70周年記念賛助金をいただいております。

Wybom ルミ子、青木義明、足立園恵、足立ふみ、飯田誠子、池田早苗、石井喜美江、石田隆一、伊藤由美子、臼井純一、大故晋一、太田幸子、大塚多恵子、岡田靖子、金森勝芳、河合潤子、川名キヨミ、菊本悦子、北原陽介、木下靖枝、日下部英一、倉田侑貴子、倉持雅人、小崎敬子、後藤田敦子、小松正太郎、小宮忠紀、小柳未利、斎藤圭子、斎藤忠雄/芳子、西郷崇子、清水裕、城所繁子、鈴木浩之、諏訪原礼子、関山真理子、高玉大、高柳彰男、高橋俊、高橋弘長、龍茂久、龍澤ゆり子、田中新二、田中節子、戸田健次郎、中村秀美、西川安子、西谷芳美、半田貴久、檜垣君子、日野珠子、藤井千鶴子、松下俱子、村田守昭、矢澤宏子、柳健一、大和健二、与謝野馨、吉田恵子、和田富士子、山口房子、向殿裕子、吉原タイ子、斎藤理子/律、宇田川幸子、加藤明子。

ありがとうございます。

スカウトクラブではご案内、情報を発送しておりますが下記の方々宛は返送されてしまいます。

下記の方々の消息をご存知の方は090-3339-7982 西郷までお知らせください。

敬称略

青島ひろ子、赤倉圭子、赤倉真理子、朝山英夫、阿南文子、阿部正人、阿部由季子、部由利江、安部浩昭、阿部修子、阿部三香子、雨宮真帆、有馬健太郎、飯泉真行、五百木邦子、五十嵐唱子(佐和子)、池沢一之、石井アエ子(茂宏)、石井真紀子、石井貞子、石井浩(忠)、石井孝子、石川謙介、石川雅康、井述朱美、井述智美、泉達也、泉ひろ子、板井宏、伊藤美智子、伊藤四季子、伊藤みな子、伊藤恵美子、伊藤まり子(進藤)、稲葉三枝子、井上恵淑、井原操、上野通子、上野剛史、宇佐美暁、宇佐美幸子、宇田邦弘、宇田川淑明、宇田川和子、江澤伸子、恵良、遠藤斗紀雄、大井淳子、大井洋子、大島貴裕(直美)、大島直美(貴裕)、大田敦子、大竹勲、大竹和江、大竹幸恵、大塚/姉、大友晶子、大浜/兄、大原真琴、小川町子(高井)、小川朋子、小沢慶子、小沢稔、小沢隆、尾関由岐子、尾上陽子、小長谷富美枝、オリバー、葛西邦武、梶正尚、柏木昌夫、加瀬安澄、加藤祐二(隆弘/美江)、加藤真理、加藤正夫、加藤満寿雄(澄江/裕一)、金井賀津子(阿藤)、金谷陽子、金谷彰子、金子光太郎、金子和樹、茅嶋静子、河合都喜子、川合宏、川上美子、川寄豊、川島正次、川島真理子、河辺艶子、川村典子(鈴木)、菊田章子(白石)、菊池千春、木田万里子、北川譲治、木村浩一郎、清瀬美佐、九鬼平子、久須美二郎、工藤由美子、工藤享英、工藤紫麻、国沢知恵子、久野陽子、窪川圭子、黒川曙美、黒崎真理子、小池(四郎の兄?)河内譲、河野祐一、小河るり子、小西大輔、小西照子、小西久美子、小長谷博、小林万裕美、小林昭夫、小林裕、小林隆則、小林みどり、小林小百合、小林有希男、小林宏之、駒崎美智子、小松龍太郎、小松忠和、小松千代、小松純子、斎藤雄一郎、斉藤利江(匠平)、斉藤文治、榊原直子、坂本桂子、桜井丈、桜井享、佐々木美知子(野口)、佐藤健太郎、佐藤馮、佐藤明善、佐藤喜二、佐藤憲法、佐藤洋、佐脇恒和、沢山宣宏、塩崎/弟、塩崎/兄、柴崎和枝、柴崎美代子、柴崎、柴田康成、渋谷雅雄、下河辺史郎、下河辺清三、下河辺元春、下島紀子、下島武徳、白井満、白木道孝、進藤誉久、末吉正男、末吉治子、須賀宏明、杉田憲彦、杉田英彰、杉原正規、鈴木慶子、鈴木心、鈴木順子、鈴木郁夫、鈴木敏文、鈴木晃、鈴木悦子、鈴木/青瓢箪、鈴木健、鈴木雅明、鈴木隆太、鈴木大介、鈴木博之、鈴木孝典、須田美弥子、須田成幸、須田治、須山、関口浩子、関口敦夫、瀬崎伊都子、ソウ、高井千恵子、高田、高田成子、高橋由美、高橋恒久、竹内公子、竹内るみ子(須藤)、竹内まゆみ、竹下和恵、武縄頼史(勳勇/礼子)、竹村、龍永久子(忍)、千葉広美、佃有三、辻啓一、対馬幸治、土屋章、筒井和一郎、都築都、恒田知子、鶴田真澄、手塚真、手塚実、手塚佳子(白石)、寺田善次郎、テリー ソール、戸川雅恵、戸川晴代、鳥生、直川和代、中居香織(福島)、中根淑英、中根允子、中根秀樹、中村一也、中村春美、中村和子(増田)、中村大輔、中村周行、長井静江(神沢)、長沢進宣、長塚隆之、永松正、名雪淳(守戸)、西家嗣雄、西山純代、西山友紀子、野儀英宣、野瀬幸子、野田豊、信田憲一、野村陽一、野本裕和、橋本邦彦、橋本真希子(大輔)、長谷川真知子、畑中洵子、畑中俊彦、花塚絹代、浜野恵子(小林)、林田勇武、比企文子、平井/兄、平林菜穂子、平林厚幸、Farrell Petter、府上征夫、福井玲子、福島悦子(政喜/博喜)、福嶋薫、福島幸子、福田菜子、福富ダン、藤井潤、藤井優介、藤井由佳、藤井大輔、藤倉康晴、藤倉直子、藤島敬子(石川)、藤田真理子、藤元孝志、二瓶徹郎、伯耆廸子(小島)、堀田、堀まゆみ、堀内敬子、本田芳子(石川)、前田千春、町島名月子、松井瑞枝、松下貴美子、松下和弘、松田武明、松野光成、松村恵美、松本裕、松本知子、松本卓也、丸谷いづみ、丸山伸吾、丸山和子、三浦国昭、三木谷ちず子、三沢晃、三島完次、三武信夫、道下恒夫、三村達也、三宅、宮坂文子、宮崎、三好南津世、村上史雄、村田ルリ子、望月、望月文子、元上泰一、森下あつ子(高田)、盛田英夫、森田とし子、森本幸子、森本健司、諸角寿子、八木康伸、八代信夫、安井礼子、安田ゆかり、矢野ゆかり、PLOUDE 和子(矢吹)、山県とも子、山岸宏之(美沙/早李)、山口かね子(川崎)、山崎久子、山崎比奈子(三村)、山田誠、山田里絵子(萩原/真伊子)、山寺淳史(京子/洋輝)、山寺健基、山寺英雄、大和健一、山ノ上善和、吉田和子、吉田祐治、若林憲、脇村茉莉子(聡子/仁樹)、渡辺えみ、渡辺明夫、渡辺順子、渡辺和枝、渡辺健三、渡辺英治、渡辺麻由美、



## 霊南坂スカウトクラブ 告知板

月例オープン集會にぜひご参加ください。話して食べて・楽しい集會にしたいと計画しております。

**原則毎月(8月は休)第2水曜日**

(祭日に当たる時は第3水曜)

**19時**~神谷町の「エリー」で開催いたします。



### スカウトクラブのホームページ

霊南坂スカウトの最新情報や昔懐かしい写真など、いろいろな情報が詰まったホームページを運営しています。

<http://reinanzaka-sc.o.oo7.jp/>

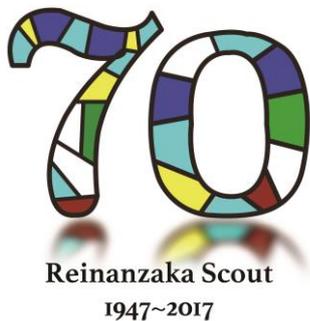
### 会費の納入をお忘れではないですか？

スカウトクラブは現団への支援、会報印刷、通信費など、皆様の会費とバザーの収益金、賛助金で運営しています。

今年度より振込先「ゆうちょ銀行」の番号が変わりました。**00170-4-765234**の伝票をお使いください。

他行からの振込の場合は、ゆうちょ銀行：店名（店番）019（ゼロイチキュー）店当座 0765234 口座名：霊南坂スカウトクラブあてにお願いいたします。

## 霊南坂スカウト70周年記念のロゴマークができました



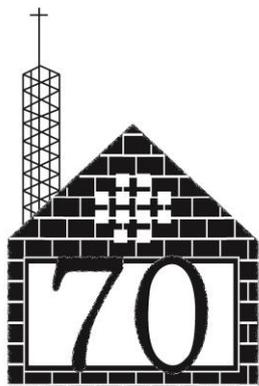
ガールスカウトリーダー齋藤理子さんのデザインにより決定しました。左「70」の数字をデザインしたカラー版と、下「教会」をデザインした2種類です。記念行事に関しては自由に使用が共有されています。教会をデザインしたカラー版についてはデザイナー齋藤さんに使用目的を伝え了解を得ることとなっています。

この会報への広告出稿をお願いいたします。

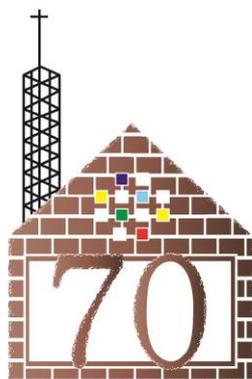
サイズ：11.3×8.2cm

掲載料：1回3,000円×年2回予定

デザイン等はお手伝します。



Reinanzaka Scout  
1947~2017



Reinanzaka Scout  
1947~2017

### 編集後記

70年間という時間は、人それぞれに異なる感覚をもつと思います。20歳にとっては半世紀も前のこと、50歳にとってはまだ生まれてなかった・・・と、80歳にして10代のころを思い出し、楽しかったこと、苦しかったことを懐かしく思い出します。この間に生活環境は大きく変化し、黒色の重い電話機は気軽にポケットに入ってしまう、映画全盛の時代からテレビジョンに変わり、今ではお互いにテレビ画面で対話ができる軽量コンパクト化した生活を満喫しています。キャンプ用品では便利で簡単な用具が開発され、素早くテントを張り、火をおこすことができます・・・が、実際のサバイバルで役に立つのでしょうか。

私たちスカウトは便利なものと上手につき合い、地震、津波、台風など自然界の変化を敏感にキャッチして、何歳になっても、体を強くして、心を安らかに「備えよ常に」の心で70周年後も元気で過ごしたいものです。

田中新二

### 霊南坂スカウトクラブ役員

会長	西郷崇子
副会長	田中新二 クラブ会報編集長
会計・団・HP	臼井純一
会計・	檜垣君子
会計	大槻敬太郎
総務・団	戸田健次郎
総務・団	倉持雅人
書記	塚田洋子
書記	西谷芳美
書記	小田島典子
通信	矢澤宏子
広報・団	清水康輝
教会・団	古谷久代
監事	ガールスカウト団委員長 日下部英一
監事	柳 健一

### 発行：霊南坂スカウトクラブ

〒107-0052

東京都港区赤坂 1-14-3

電話：03-3583-0403

日本基督教団霊南坂教会内

ホームページ

<http://reinanzaka-sc.o.oo7.jp/>